



ICTって何？ 一人一台のタブレットで何が変わるの？

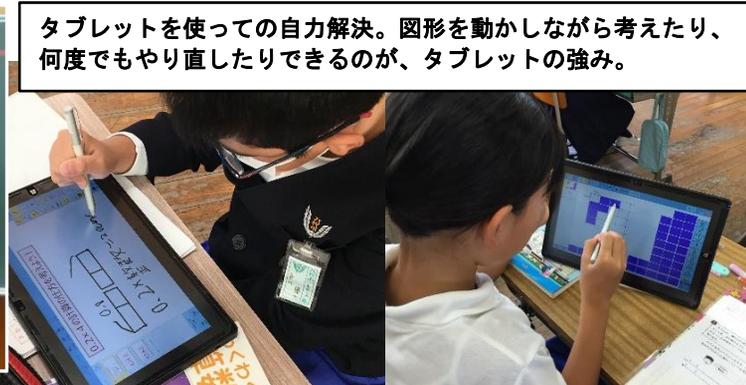
コロナ禍のなか、社会や高等教育機関ではリモートによる遠隔勤務や授業が定着し、小・中学校においても、その必要性が急速に叫ばれるようになりました。八代市においても、各小中学校に一人一台のタブレット端末を配備することが決定し、現在タブレット端末が配付され、周辺環境の整備や活用ソフトのインストール等が進んでいるところです。

では、一人に一台のタブレット端末が配られたことで、何が変わるのでしょうか？ マスコミでは、「リモート授業」や「プログラミング教育」だけがクローズアップされていますが、本来の目的はそこだけではありません。むしろ、それらは、本来の目的のごく一部もしくは派生した活用法です。本来の学校でのICTを生かした学習とは、将来に向け、タブレット端末等を自らの学びに生かす力を身につけさせると共に、子供たちの学び方に多様性を持たせることが主目的です。

八代小学校では、平成29年度に熊本県教育委員会から「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト研究推進校」八代市教育委員会から「ICT推進モデル校」の指定を受け、他校に先駆ける形で教育におけるICT活用の在り方を研究・実践してきました。ここで本校のICTを活用した授業の一端をご紹介します。（マスク未着用の写真は、昨年度の学習の様子です。）



画像や動画を使っての課題提示。子供の興味関心が違います。



タブレットを使っての自力解決。図形を動かしながら考えたり、何度でもやり直したりできるのが、タブレットの強み。



体育では、動画で、自分の動きを客観的に確認。



実験の結果を、動画や画像に記録します。



自分の考えを、画像を使いながら学級で紹介。友達のをもとに自分の考えを深めていきます。



遠く離れた人との交流もできます。

これまで、タブレットの配置が少なく、週に一回程度の活用にとどまっていたことが、今は常に手にタブレット端末があることで、更に活用が充実するものと期待しているところです。また、家庭での活用を想定して、宿題での活用に取り組んでいます。

しかし、ICT端末を持つと言うことは、よい面ばかりではありません。便利な故の心配な部分もあります。いわゆる「ゲーム・ネット依存」や、SNS上での様々なトラブルです。特に小学校の間ではゲーム依存症の問題が深刻化することが多いようです。先日実施したアンケートでは、本校の子供たちのゲーム使用の時間は全国平均を大きく上回っています。また、家にいる時間のほとんどをゲームに向かい夜眠れず生活リズムを崩したり、端末に向かわないとイライラしたりするいるという相談も急増しています。私たち大人の責務として、その便利さだけでなく、弊害や端末との付き合い方についても指導や支援をしていく必要性を感じているところです。



地域の目に守られて・・・

今月は、市内で痛ましい事件が発生しました。事件発生当日は、加害者が確定していない状況であり、急遽ではありましたが、児童の安全確保を第一に考え、児童の引き渡し及び一斉下校を実施いたしました。保護者の皆様にはご協力いただきありがとうございました。

また、翌週の月曜日の登下校についても、八代校区住民自治協議会に協力をお願いし、町内会長会の皆様、防犯協会、交通安全協会の方々が、登下校の見守りに協力いただきました。

子供たちとも、「私たちはたくさんの温かい支えのなかで生活している」事を、再度思い起こし、共に感謝したところです。

